



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2020～2021年度 RI会長 ホルガー・クナーケ
RIテーマ ローターは機会の扉を開く

クラブテーマ「思いはひとつ」

会長 加藤正幸

副会長 米山晴敏 幹事 服部光弥

第1456回 例会
2020.8. 28(金)雨

司会:大庭靖貴君 指揮:
ローターソング「それでこそローター」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータークラブ 検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 加藤正幸君



地区ガバナー萩原氏・地区幹事谷本氏が急遽、辞職
アクティングガバナーに志田氏(元ガバナー)、地区幹事に
寺戸氏がその任にあたる事になりました。地区本部より連絡
有。

今年度会長挨拶するに当たり参考本を支度しました。どん
な話し方をしたら良いのか、人前で話すのが苦手な私にとっ
て悩みの一つです。

本の内容を紹介します。

「よいスピーチ」をするための心構え

よいスピーチとは、退屈な決まり文句や、美辞麗句、ほめ言
葉、会社のPRなどを並べ立てる事ではありません。「いかに
話すか」ではなく、多少話し方に失敗があっても、「何を話す
か」という話の中身のほうが、人の心を引きま。

そのためには話の中身、話題を自分なりにまとめておくこと
が必要です。

堅苦しく考えないで「そうだ、あのことを話そう」でよいのです。
そのためには、日ごろから社会や人間、文化について自分な
りの感じ方を豊かにしておくことです。必要に応じて関係者の
話、資料を参考にするのも一つの方法です。

「スピーチは短ければ、短いほどよい」といわれます。話題は、
誰にでもわかりやすいものにし、話したいことがたくさんあっても
思い切ってしまひこむようにしよう。

会長終了頃には少しでも挨拶が上手くなっていれど、この
1年間、私の挑戦でもあります。

本日、長泉プレミアム商品券販売の手伝いしてきました。
中抜きで例会に来ました。8,000円商品券が5,000円で購
入できます。販売期間と販売先が多い為、密にならずにすん
でおります。午後の部にまた参加してきます。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	24/33	72.73%	24/33	72.73%
今回	19/33	57.60%	会員総数	33名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、大村君、岡君、小島君、小林君、篠木君、鈴木君、
田中君、土屋君、中村君、中本君、宮澤君、矢岸君、渡邊君
(*出席免除会員の欠席者)

今日の料理



スマイルボックス

藤川智徳君:本日卓話です。宜しく願い致します。

片野誠一君:早退させていただきます。

幹事報告

幹事 服部光弥君

①9月13日「夏の家族会」の詳細が決定しました。親睦活動
委員会より開催案内および出欠確認を致します。多くの皆様
の参加をご期待致します。

②次回、9月4日例会後、理事役員会を開催いたします。議
案上程される理事委員長の皆様におかれましては理事役員
会開催前日までに議案書の提出をお願いいたします。

社会奉仕委員長 藤川智徳君



コロナ禍となってから半年以上が経ち、今も尚、大変な状況が続いております。

僕も以前、コロナ自粛STAY HOMEの時YouTubeを何気なく見ているとある会社の若い社長がこんな事を言っておりました。「仕事でも私生活でもこれからやっつけようとしている全ての物事は、実はすでにゴール・結果が決まっているのだ。だとすれば、だからこそ、最も重要なのはそのプロセス（過程）である。プロセスが、いかに充実しているかで、その結果は大きく変わってくる。上の事でした。成程、確かに「結果がなんぼ」の世界に生きている僕らは、どうしても結果重視になりがちですが、良い結果を出したいというのは誰でも同じである。とするのなら、あとはプロセスの内容の違いで差が出る、ということが良くわかります。ひと昔前までは「結果良ければ全てよし」なんて言われていましたが今の時代はプロセスがキチンとしていなければ決して良い結果にはならないよ、と僕もこうも聞かされたのです。だから、どうやってプロセスを充実させていったらよいのでしょうか？一つ質問させていただきます。

ここにいらっしゃる皆さんは普段会社にて社長という立場で従業員の方々に対して指示をしたり共に行動したり、もちろん給料を支払ったりと色々な役目を果たされていると思うのですが、では一体、皆さんはその従業員の方々のどんなところを見ていらっしゃいますか？どこをみて評価されていますか？言う事を聞いて良く働くかどうかですか？気が利くところでしょうか？それとも生産性ある能力の部分や、取ってきた契約件数・成果ですか？お客様に対する姿勢や態度でしょうか？僕もこれらのことを一つにまとめて言うとしたら「その人がどんな気持ちで仕事に向かい合っているのか」を皆さんはみているのだと思うのです。

なぜ突然こんな話をするのかと言いますと実は社会奉仕も全く同じことで、奉仕をしていく上で、何をやっていくかは重要なことですが、それを僕らがどんな気持ちでやっていくかはもっと大事なことだ、と思うのです。人様の役に立ちたい、とか、みんなが楽しく幸せな社会であらいたい、とかやっていきたいことの答えは既に決まっています。だとすればあとはそのためのプロセスをどんな気持ちでやっていくのかだ、と思うのです。今の話を逆から言えば、良い結果を導き出すためにはプロセスが重要でそのプロセスのためには気持ちがとても大切です。気持ちがあれば有益なアイデアがどんどん湧いてきます。では、どんな気持ちでやっていきましょうか？そのことについて申し上げます。僕の顔を見てください。僕は髭も濃くて、しかもこんな顔をして、非常に恥ずかしいのですが今から真面目に「愛」についてお話しします。

こんな話が溢ります。

今から800年前のローマ皇帝フリードリヒ2世が「言葉を一切教わらなかった赤ちゃんは、一体どんな言葉を話すようになるのか？」という疑問を持ち、部下に生まれたての赤ちゃん50人を集めさせて部屋に隔離し、実験を行いました。その時の実験での条件は次の通りです。

- ・赤ちゃんの目を見てはいけない
- ・話しかけてはいけない
- ・笑いかけてはいけない
- ・ミルクをきちんと与える
- ・お風呂に入れる
- ・排泄の処理をする

つまり衣食住、生きるための世話はきちんとするけれども、スキンシップは一切取ってはいけないというものでした。皆さんはこの50人の赤ちゃんが、その結果どんな言葉を話すようになったと思いますか？正解はそれどころではなかったのです。なんと50人の赤ちゃん全員が1歳の誕生日を迎えることなく死んでしまったのです。後にアメリカのある心理学者が戦争孤児となった55人の乳児に対して似たような実験を行ったのですが、その結果も55人中27人が2年以内に死亡。17人が成人前に死んでしまい11人は生き延びましたがその多くは知的障害や情緒障害が見られたとのことでした。結果的に非人道的で残酷な実験となってしまったのですが、このことからわかるのは人は愛無しではまともには生きられないという事です。

これは何も赤ちゃんの話に限ったことではありません。いじめ問題はもちろんの事、幼児虐待やネグレクト、大人に至ってはウツや8050問題、孤独死、自殺、酷い時は肉親の殺害。また、最近では心無いへい発言など、列挙すればきりがありません。みんな愛や情の世界から逸脱してしまった結果なのでしょうか？これってその人だけが原因なのではないでしょうか？これからAIが進んでいくと、より便利になる反面、AIは僕らから大切なものを確実に奪っていくことでしょう。しかし、人間の愛や情は決してなくなることはないもの一つであります。悲しいかな、「愛だけでは人は生きていく事は出来ない。」という事は誰もが知っています。だから、そんな「愛がなくても人は生きていく事は出来ない。」ということもまた事実です。人は愛されているな～と思う時、そう思える時こそ、より幸せを感じるのではないのでしょうか。

愛とは何か、その中身について自分ごときが語るつもりは毛頭ございませんが、ただ一つだけ言えることは愛とは、誰もが必ず持っている、けれどその愛をどう意識、どう活用していくかとても重要なことだと思います。

という事で、今年度社会奉仕委員会においては、より一層の愛を以って正にその「愛」をテーマに活動していきたい、と思っています。が、ここで愛をテーマにした理由についてもお話ししなければなりません。

実はここ最近、そもそも奉仕って一体何なんだろうかとずーっと考えておりました。第一例会で唄「奉仕の理想」の理想って何なんだろうって感じて、ぼんやりとは解っていても、本当は何にも解ってなくて、非常に困惑しておりましたのでここは、思い切って大師匠でもある松下幸之助さんの所へ相談に行ってきました。空想の世界です。先生、奉仕って一体何なんですか？僕はズバリ単刀直入に聞いてみました。すると先生は、少し笑みを浮かべながら「それはね、普段から君がしていることだよ。」と言うのです。「えー。僕がですか？それはロータリーにいてやっている活動の事ですか？」「違う、違う、そういう事を言っているのではなく、ロータリーにいる時も、普段の時も、実はロータリーに入る前から君がずーっとやっていることなんだよ。」「……。」「いいかい、奉仕とはその字の通り仕えるという事で、君たちは僕に仕えてくれて、僕も君たちに仕えている。要するにお互いに仕えあっている関係で、お互いに感謝し、お互いに与えあい、そういうものがお互いの絆をつなぐわけや。」「そして社会は成り立っていて、10のサービスを受けたら11を返す。その余分の1のプラスが溢れば社会は繁栄していかないよ。」先生は、真剣な眼差しで、だけれども優しくお話ししてくださいました。先生の話聞く前は僕自身、奉仕って、どこか特別なことで、例えば余裕のある人が余裕のない人を助けること、のような一方通行な感じを図式として描いていたのですが実はどんな立場の人でも、その立場に応じた奉仕がある。ということらしいです。仮に余裕のない人が、私には人に与えるものなど、何も無いと思ったとしても街にゴミが落ちていてそれを拾ってゴミ箱に捨てることもまた、人に気持ちのいい挨拶や感謝を伝えることも十分に、与えること仕えることになるとの事でした。社長には社長としての奉仕があり従業員には従業員としての奉仕があります。形は違っても、大事なことは「与える心」を誰もが持つことです。思いやりを持って自分のできることをしていれば、それが与え合いとなり、お互い様となって世の中はもっともっと素晴らしいものになるでしょう。お互いに仕え合う。仕え合うと書いて仕合わせと言います。この仕合わせとは、めぐりあわせを意味し、偶然性から生まれる、人との御縁になります。与える心や、この仕合わせを一言で「愛」と表現して今回のテーマとさせていただきます。

そんな流れから今回社会奉仕の一例としておたまちゃん食堂のことを、自分自身、少し反省も含めてお話しさせていただきます。

実は、委員長を任命される前の自分は、どこか他人事で知ろうとせず失

礼ながら正直、誤解さしておりました。その誤解とは当初例会にて、押田さんがおたまちゃん活動についてのお話をされた時にまともな食事ができていない子供たちがいるので何とかしてあげたいとの内容でただその親たちの状況として、本当に困っている家庭もあれば不摂生な親の家庭もあるということを知ったうえで、僕は内心、「そんなのだらしのない親のせいじゃん」子供にどうこうする前に親がきちんとできなかつたら、そんなのいつまでたっても良くならないよ。」と短絡的にそう思っていました。お中元やお歳暮時の支援も先輩方が頑張っているので形だけ協力していたもののそこに気持ちはあまり無かったというのが正直なところでした。ところが数か月前、社会奉仕委員長長任命のお話を頂いたのを機に子ども食堂について自分なりに調べてみたり、勉強会に出席させていただいたりと学習していくうちに少しずつですが、その意義を理解できるようになってきました。更には、ある日おたまちゃん食堂へのお届け物を頼まれ、実際に初めてその現場の光景を目にした時とても驚かされました。そこには本当に楽しんでいる大勢の子供たちの笑顔があり、喜びの親の姿、押田さんと共に頑張っているスタッフの方々もいて、その空間のエネルギーには感動すら覚えるものがありました。何より活動の賜とも呼べるその絆は、昨日今日でできる即席ではない、ということも誰の目にも明らかです。先日の活動で、中学生や高校生の子も率先して手伝っていたのですが、僕はあんなにキラキラとした綺麗な瞳を久しぶりに見ました。最初は子供たちへの食事をテーマにしていたことが今では自然とそこにコミュニティを生み、みんなの憩いの場、安堵の場になっているようです。そして今では食材を提供するだけでなく、子供たちに料理の仕方や、学習指導も行いました。貧困な家庭の子供には何かか虫歯が多いという事で、歯磨きの励行など生活習慣指導も取り入れられたり、日々活動も進化しています。仮に寄付や支援活動は出来たとしても、これだけの公益性をもったコミュニティを作り上げていくことは並大抵のことではありません。それは正に人と人の触れ合いが希薄になってきている現代において最も価値のある理想郷であります。人として最高の奉仕をされているおたまちゃん食堂を逆に応援しない理由がありません。出来ない理由を並べてやらないよりも、できる一つをみつけていきたいのです。何より国の宝である子供たちを応援していく事は、巡り巡って社会の発展を願う活動でもあり、もっと端的に言えば、単純に子供たちの希望に満ちた瞳や喜ぶ顔がみたい。と誰もが自然にそう感じるはずで、行きつ結果としては、親も子も誰もが幸せに暮らせるように自立のお手伝いのできたら最高です。それがおたまちゃんを応援していきたい自分なりの理由です。もちろん、是かあれば非もあることばかりです。下手に食材を提供することで中途半端な親たちを助長させてしまったり、また、本当に貧しく困っている家庭の子供に辱めることなく届けられるだろうか、衛生面や責任問題など不安要素だって数多くあります。だけど、何かをやるとうする時にはいつだって問題がつきものだしその問題点を一つ一つ解決していく、だからこそ、本当の意味で価値が生まれるのではないのでしょうか？例えば、だらしのない親たちを頭ごなしに教育することなど到底出来ませんが、おたま塾で成長する子供たちをみて、いつの日か親として気付く場合もあるかもしれません。先ほど「だらしのない親のせいじゃん」などと言ってしまうことが、その親達だって実は悩み苦しみ、心の中で助けを求めているのかもしれない。又は、未熟が故に未だに大切な事に気付いていないだけかもしれません。何せ、ゆとり世代の親達は生まれた時から大量の電波に囲まれた生活の中昼と夜の境もない24時間コンビニが存在し、ジャンクフードは街中に溢れ、家に帰れば高性能なゲーム機に夢中にさせられる、そんな時代背景で、物の大切さや順番があることを教わる機会にも恵まれず、多すぎる情報量の中、何が真実なのかはわかりません。今では本気で叱ってくれる人もなくなりましたこんな世知辛い世の中で全部が全部、親のせいなどと切り捨ててしまえば、少し可哀そうな気がします。愛を以てこれを考えてみれば実はすべてが繋がっていることだったのです。僕は自分の見解の狭さにも恥ずかしくなりました。もっとも理解しなければならぬし、理解するためには先ず知る必要があるとつくづく感じます。愛の反対は憎しみ、ではなく無関心であることだ。とよく聞きますが言い換えれば関心を持つということは既に愛することの始まりとも言えるでしょう。米山さんが僕にロータリーとは「奉仕」と「親睦」で成り立っていると教えてくれたの

ですが、よく見るとおたまちゃん食堂もまるでロータリーと同じように「奉仕」と「親睦」の両輪で動いていて、地域の子供は地域で育てるということを実践している姿でもあります。

今回僕が、皆さんにお願いしたいのは、おたまちゃんの現場を何はともあれ、見て頂きたいという事です。現場は嘘をつきません。彼女たちが自分の時間も休みも擲げて頑張ってきた事実がそこにはあります。是非を問うのはそれからでも決して遅くは無い筈です。見てから判断するのと、見ずして臆測で判断するのでは全然意味が違います。皆さんの心を震わせる何かを感じて頂ければ幸いです。余談ではありますが、僕の仕事は建築業でして工事を完成するにあたっては、完成の状態を想定し、そこから逆算して工程を組み、問題点を予測したりするので自分自身どうも職業柄、物を逆から考えてみる習性があります。そういう逆の観点から考えてみると実はロータリーの活動もほとんどは現況と逆の事をする事だとも思うのです。例えば、カンボジアやおたまちゃん食堂に支援をするという事は、今現在、子供たちや環境において満たされていない現状がそこにあるという事でだから、その不足を補う活動が必要となってくるのでしょう。僕らのやるべきことは、そのような不足を補ったり、乖離を埋めていく事であって何も建設的に何かをつくりあげようという難しい話ではありません。只、今ある現状にそっと心を添えてみたり、あるいは弊害となっている垣根を取り払う行動が必要だという気がします。

問題は山積している現在、昨今の中国・アメリカのようにつながり合っている場合ではないし、また、他人事だどノックを向いている時でもありません。国や地域など土地の境界線があったとしても人と人の心のふれ合いにおいては境界線など要らない筈です。ロータリーの活動は建設的でなくても、しかし立体的でなくてはなりません。仮に僕だけが愛だの情だの言って一人行動では何の意味もございません。みんなで作るから意味もあるし、そういう意味でもどうか皆さんのお力を貸してください。

以前の服部先輩の卓話の中でロータリアンの資質ということで「ロータリアンとは行動する人」というお話がありました。自分も全く、同意見でございます。世界での貧困、飢餓、疫病、災害等をTVなどで目にすることがありますが、人は誰でもそれを見て可哀そうだと感じるとは思います。しかし、大多数はそれ止まりで何の手助けも実際は容易にできません。たとえその気持ちがあっても一人でなかなか行動できないし、その術すらないのです。でもロータリーであれば、仲間がいてアイデアがあってそして実際に行動するのです。奉仕の形とは例えば体を使ったり顔を使ったり、時にはお金や物の場合だってあるかもしれませんが、ただ共通して言えることは、やはり「奉仕とは愛をもって行動すること」ではないでしょうか。たまた、何で奉仕活動をしているの？と聞かれることがありますが僕は社会に対し奉仕活動をしていく理由は要らないと思っています。なぜなら、冒頭でもお話しした通り人は愛無くしては生きられぬという基本原則に基づけば人が人のためになることを見つけていく事も、また、困った人がいたら無条件で手を差し伸べることは当然の事ではないでしょうか。自分もそうして助けられ、生かされてきました。きっと今でも救われている日々の連続でしょう。心理学でいうところの返報性の原理とは人間誰もが持ち合わせており、遠藤さん推奨のゴルゴ松本が言うように、五十音の最初の「あい」(愛)のあ(愛)を人は知ることから始まり、最後「わをん」のおん(恩)を返して人生を終えるように生きていくものです。ロータリーは、時に優しく時に厳しく、僕にそんな色々を教えてくれる場所だと思っています。

さて、僕の長つたらしい話もいよいよゴール目前です。非常に怪しいで不確かな情報によれば、どうやら人類は西暦5700年頃に完全に一人もいなくなるとのことですが、このロータリーの心優しい精神が人類滅亡のその瞬間まで続いていく事を祈ります。

